



子どもの森づくり通信

発行：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク

〒146-0094 東京都大田区東矢口2-6-14 tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081

<https://www.kodomonono-mori.net> mailtp:info@kodomonono-mori.net

J P子どもの森づくり運動
参加園月例会報
(2025年1月号)

「J P子どもの森づくり運動」とご縁をもたせていただいた方々に、活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。

<今月の1枚>



新しい年が始まりました。今年もよろしくお願い申し上げます。

新年1月号の子森通信をお送りします。

今月号では、「幼児期の遊び」に沿った巻頭エッセイをお願いしました。

自然の体験を提供することをミッションとする「JP子どもの森づくり運動」にとってもとても示唆的なエッセイです。是非、お読みいただき、ご意見等をお寄せください。

写真は、千葉県「今井保育園」で育てられ、東北に届けられたどんぐりの苗木です。

まさに、『生きる力』を感じます。

(目次)

1. 2025年1月号 巻頭エッセイ
2. 「東北復興グリーンウェイブ2024」東北のどんぐりを見送る活動レポート
3. 「どんぐりSDGs劇団」岩手県「駒形こどもの杜」活動レポート

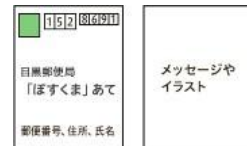
日本郵政グループからのお知らせ

日本郵政グループは「J P子どもの森づくり運動」の支援のほか、子ども達に向けた様々な取り組みを行っています。

【特別協賛】



お手紙をくれたみんなに
ぽすくまからお返事が届くよ!



ぽすくまの動画はこちら



YouTube
ぽすくま【日本郵便】
https://www.youtube.com/channel/UCeio0TZWe2WgapX_NqUUZ9A

ぽすくまと仲間たち
© JAPAN POST Co., Ltd.

ぽすくまと仲間たちは郵便局のキャラクターです。ぽすくまは、くまのぬいぐるみの郵便屋さんです。仲間たちもみんな手紙が大好きです。

あて先はこちら

〒152-8691
目黒郵便局「ぽすくま」あて

※ぽすくまへのあて先を記入の際、保護者の方のサポートをお願いします。返信ご希望の場合は、手紙に住所（建物名・部屋番号まで）・氏名を忘れず記載ください。

1. 2025年1月号 巻頭エッセイ

「子森通信」2025年1号では、広島県「さざなみの森こども園」の高田 憲治先生の巻頭エッセイをお送りします。高田先生には、今月号から3回に渡って、リレーエッセイをご担当いただきます。テーマは、子どもたちの「遊び」について。幼児期の「遊び」は、「非認知能力」を育む活動として、今の保育・幼児教育においてもっとも重要なテーマであり、JP子どもの森づくり運動が2年越しで追及する年間テーマです。『子どもは本当に「遊んでいる」のか』巻頭エッセイにふさわしい、とても刺激的なエッセイをお送りいただきました。

子どもは遊んでいるのか？

認定こども園さざなみの森 副園長 高田 憲治

新人類世代であり、米国の心理学者ダン・カイルが『ピーターパン症候群』を著した1983年に就職活動期を迎えた私は、「一生遊んで暮らせる仕事はないか？」と問い、大卒後に保育の世界に飛び込んで37年。当初の目論見通り、還暦を迎え60歳児として日々、遊んで暮らしています。

「遊び」、「①遊ぶこと。②酒色にふけったり、賭け事をしたりすること。遊興。③仕事がないこと。仕事がなくひまなこと。④物事にゆとりのあること ⑤機械などで、急激な力の及ぶのを防ぐため、部品の結合にゆとりをもたすこと。－中略－⑧詩歌・音楽・舞い・狩猟などを楽しむこと。…」とあります。五領域となった平成元年度以降に保育を学んだ保育従事者は、「幼児の生活のほとんどは遊び」であり、「遊びは学び」であるということを押さ込まれ、辞書的な意味を越えた「遊び」の価値や意義を信じてきたはずです。冒頭の私の、「一生遊んで暮らせる」は、まさに辞書を越えた「平和で、創造的で、自分らしく、自由に、楽しんで生きる営み」をイメージしていたので、「遊びは学び」、「遊びは創造的行為」といった言説に出会い、保育者への道を歩む背中を後押しされて、その道のりの先に今の私があります。

ところが、この「子どもは遊ぶ」という表現について、最近、違和感を覚えるようになってきました。子どもは本当に「遊んでいる」のかと。子どもの活動、行為、有り様は、状況的、関係的に多様で多面的な心と体の動きで構成されています。



高田先生

そこには、『何もしていないように見える姿』も含まれます。例えば、登園時に涙で保護者と別れた後、気持ちを切り替えていくまでの姿。自分の思いが通らなくて拗ね、自分なりの落としどころや折り合いを見つけるまでの姿。何かに夢中に取り組む他児の様子をじっと見つめている姿。こうした場面は、実は、園生活で少なくありません。順調で、夢中になって楽しんでいる姿ばかりではない、むしろそうではない場面や姿に、その子がその子らしく育つ種が散りばめられています。また、活動的に見える場面でも、『表面的に捉えにくい姿』があります。その子が何に興味・関心をもって今そこで、そうしているのか。かかわりの中で、「遊んでいる」と一言で片づけられない、その子の置かれている心と体と周囲との関係性、そうした状況が織りなす物語があることに気づきます。

実は私、2024年度秋から、4歳児のクラス担任となる機会が与えられました。13年ぶりのことです。子どもと共にあることに没頭できる日々、この上ない幸せを感じています。つい先日の（2025年1月第3週）のエピソードを紹介しますね。

Aは、保育室の本物の流し台から背中を丸めるようにしてまごごとコーナーに向かっていきます。胸のあたりに何かを抱えています。ペットボトルです。



チーズ作り1

Bがそれを受け取りました。どうやら、Bの指示で、水をこっそり持ち込んだようです。Bは、木製の流し台の中に水を注いで、木べらで溶き混ぜています。Aと、そのそばにいた数名が覗き込み、固唾をのみます。私もそっと近づいたのですが、気づかれてBの手が止まります。そしてすかさず、「あのね、チーズをつくるために、どうしても水がいるの。」と弁明と思しき言葉がBから私に発せられます。流し台に置かれたお皿の上には粘土があり、小さな水たまりができています。そして、その横には、もうすでに大量のチーズが並べられていました。油粘土と水が混ざり合う独特の匂いがあたりに漂っています。



チーズ作り2

戸外なら、水だけでなく、草花、木の枝葉、砂、泥、石等、素材とその使い方について自由度が高いのですが、室内となると様々な制約が生まれます。室内のままごとコーナーへの水の持ち込みは、これまでご法度だった

のでしょう。それにしても、なんて心躍る試みなのでしょう。私たち大人が「遊び」とひと括りにしている活動、行為、有り様は、子どもにとっては実験や挑戦、芸術や生活そのもの。そして、「人間関係のあや」も展開されていきます。Aは、自らの興味関心ではなく、Bへの忖度、依存により行動したのでしょうか。Bは、とがめられると直感した行為を、Aにやらせています。そうしてでも、チーズ作りを試し、保育者が意図、準備したままごとの枠組みを越えていこうとしています。リアルさの追求、遊具設計への挑戦（水使用を前提としていない遊具での水試用の顛末）という実験でもあり、生活水と子どもが自由にできる水の境界線を探る営みでもあります。

子どもは、遊んでいるのではない。生きている。生きて、世界と対話している。対話しながら、自分をつくっている。新しくつくる自分で、また、世界と対話を重ねていく。幼児期の教育は「環境を通して行う」と謳われて久しい。「世界との対話」を便宜上、「遊び」と称していることを踏まえ、子どもの科学と芸術と哲学を阻害しないよう心がけたいものです。（写真提供：さざなみの森こども園）

引用 Weblio辞書・デジタル大辞泉

<https://www.weblio.jp/content/%E9%81%8A%E3%81%B3>

※高田先生プロフィール

高田 憲治 1964年生まれ

前広島女学院ゲース幼稚園・園長

認定こども園さざなみの森 副園長

広島文化学園大学 非常勤講師

日本保育学会会員

日本ベストロッチャー・フレーベル会員

子育て応援隊 大丸ロケッツ（男性保育者ロックバンド）リーダー

2. 「東北復興グリーンウェイブ2024」東北のどんぐりを見送る活動レポート

・実施園：認定こども園みのり愛児園 ・2024年5月14日(火) ・場所：自園 ・参加園児数：102名

・日本郵政グループ参加者：川内郵便局 緑井郵便局 安佐南郵便局

2022年秋に東北から届いたどんぐりが子どもたちに見守られ、無事かわいい苗木に育ちました。5月14日にお見送り会を行い、郵便局の方も7名来て下さいました。会では東北どんぐりのお話を真剣に聞く姿が見られ、6本の苗木に「大きくなってね」と声をかけるなど心を込めてお見送りをしました。(園レポート)



3. 「どんぐりSDG s 劇団」岩手県「駒形こどもの杜」活動レポート

・日時：2024年10月23日（水）10時～11時 ・参加者：保育者、園児（約80名）

どんぐりずの登場から園児たちは大はしゃぎでした。「どんぐりころころ」を一緒に歌ったり、劇中に登場する鳥が実際に飛んでいるかのように視線を巡らせていました。先生から「本格的なお芝居でびっくりした。子どもたちを引きつける演技力はさすがプロ。脚本もSDG s や自然科学が学べるとても良い中身でした」と、おほめのコメントをいただきました。(子森ネットレポート)

